

モデルプログラム I-1 日本語指導の計画と実施ー特別の教育課程と個別の指導計画ー

ねらい	取り出しの日本語指導を「特別の教育課程」として実施するために、日本語のコース設計の手続きを知り、児童生徒の実態にあわせて個別の指導計画を作成できるようになる。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	I 日本語指導の計画と実施
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 「特別の教育課程」の編成には、個別の指導計画の作成が必要であることを理解する（5分） ・「特別の教育課程」としての日本語指導（I）	1. 「特別の教育課程」の実施上の留意点に関する資料（文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm 等）を読み、個別の指導計画の作成の必要性を知る。 ・実態把握（来日年令、母語、日本語能力、学習歴、家庭の言語環境） ・指導期間と頻度の決定 ・「個別の指導計画」の作成 －指導内容・方法（日本語部プログラム）の選定と組み合わせ ・評価と計画の修正
2. コース設計の考え方を知る。（15分） ・日本語のコース設計の手順（I）	2. コースデザインについて講義を通して知り、個別の指導計画を作成する手続きをイメージする。 ・実態把握（レディネス分析・ニーズ分析） ・目標言語調査（生活・学習で求められる日本語） ・シラバス（学習項目）の決定 ・教授法、教育方法の決定（教室活動、教材） ・評価の方法
3. 各種日本語プログラムについて理解する。（25分） ・日本語プログラム（I）	3. 次の日本語プログラムについて、指導の具体例をもとに理解する。 ・サバイバル日本語 ・日本語基礎（文字表記、文型、語彙、句型） ・技能別日本語 ・日本語と教科の統合学習
4. 指導計画を立ててみる。（20分） ・指導計画の作成（I）	4. 指導計画例を、異なるタイプの児童生徒の場合にどう変更する必要があるかを知り、個に応じて指導計画を立てることの重要性を理解する。 例) 来日直後の小学5年生、非漢字圏出身 （文部科学省『外国人児童生徒受入れの手引き（改訂版）』p. 35～37 参照） 異なるタイプの児童生徒： ・日本生まれの小学1年生 ・小学3年で来日した小学6年生

	・来日直後の漢字圏の中学2年生
備考	<ul style="list-style-type: none">・可能であれば、3、4は、時間をかけて体験をしたり、計画を作成したり取り扱い、十分な理解と実践的なスキルを高めることが望ましい。・この内容を教育実習時の学習内容としてもよい。